

## ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

企画名称 (講演タイトル)	東洋大生がワークショップで考える SDGs
講 師	認定特定非営利活動法人開発教育協会(DEAR) 岩岡 由季子さん
開催期間・日時	2021 年 5 月 8 日(土) 10:30~12:30
会 場	Zoom によるオンライン開催
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGs の概要について学ぶ。</li> <li>・ SDGs についての関心を高め、今後の更なる学びや行動に繋がるきっかけを作る。</li> </ul>
参加者数	計 22 名 【内訳】学生 18 名、教員 2 名、ボランティア支援室スタッフ 2 名
協 力	
<b>活動内容(概要)</b>	
<p>ボランティア支援室では昨年度に引き続き、学生の SDGs についての関心を高め、主体的な行動につなげていくため、SDGs についての学びの場を設けました。今年度第 1 回目となる今回のワークショップは、主に初めて SDGs を学ぶ学生を対象に開催しました。</p> <p>講師として認定特定非営利活動法人開発教育協会(DEAR)の岩岡由季子さんにお越しいただき、学生のディスカッションをメインにした参加型のワークショップとなりました。</p> <p>今回のワークショップでは新 1 年生の参加も多かったことから、冒頭でグループに分かれてのアイスブレイクの時間を十分に取って、今わたしたちが直面している新型コロナウイルスの問題について、自分の率直な気持ちを語り合うことからスタート。学生からはこれからの生活に対する「不安な気持ち」が多く語られていたことが印象的でしたが、オンライン上ではあるものの学年や学部を越えて対話することへの喜びも感じられました。</p> <p>ワークショップでは、発展途上国や先進国を含めた世界 9 か国の様々な数値データ(人口、CO2 排出量、格差の度合いを示すジニ係数など)について、15 年前の数値と近年の数値を比較しながら、「持続可能な開発」とは何かということを考えていきました。そして、その数値がこの「コロナ後」にどう変化していくと思うのかを参加者同士でディスカッションしました。新型コロナウイルスによる一連の社会の変化により、私たちは自分たちの暮らしの「これまで」と「これから」をおのずと考えさせられることになりました。これまでの当たり前の暮らしは、これからも持続可能なのか？という SDGs からの問いかけは、コロナ禍にある今まさに自分事として考えていくタイミングにあると感じます。</p> <p>世界の現状、そして過去 15 年における変化について理解を深めたところで、2030 年に向けた課題解決の目標である SDGs についてレクチャーがありました。アジェンダ 2030 に記された今日の世界に対する「強い危機感」を受け取り、私たち自身が具体的に行動を変えていくことの必要性を実感させられるとともに、普段の暮らしの中にこそサステナブルな視点を持つことの大切さを学びました。</p> <p>参加した学生からは、「SDGs についてもっと深めたい。」といった学びへの意欲や、「自分たちが解決するために協力できることをしたい。」など、具体的な行動へのモチベーションを感じるコメントが多数寄せられました。</p>	

## ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

た。そして、コロナ禍で他者との自由な対話の時間が減っている中で、オンライン上であってもこうして交流ができることへの喜びや安堵感を感じられたようです。

ボランティア支援室では、引き続きより多くの学生がSDGsについて関心を高めることのできるよう、こうした学びの場を提供するとともに、学生一人ひとりが自分の関心のある分野について更に学びを深め、課題解決に向けて具体的なアクションを模索し実行できるような機会を作っていきたいと思います。

※写真があれば数枚を添付。但し、HPや広報誌に掲載する場合がありますため、被写体の了解を得るなど、掲載可能な写真を提出してください。

